史跡
国指定

春日山古墳群（かすがやまこふんぐん）

大津市真野谷口町　昭和49年12月23日指定



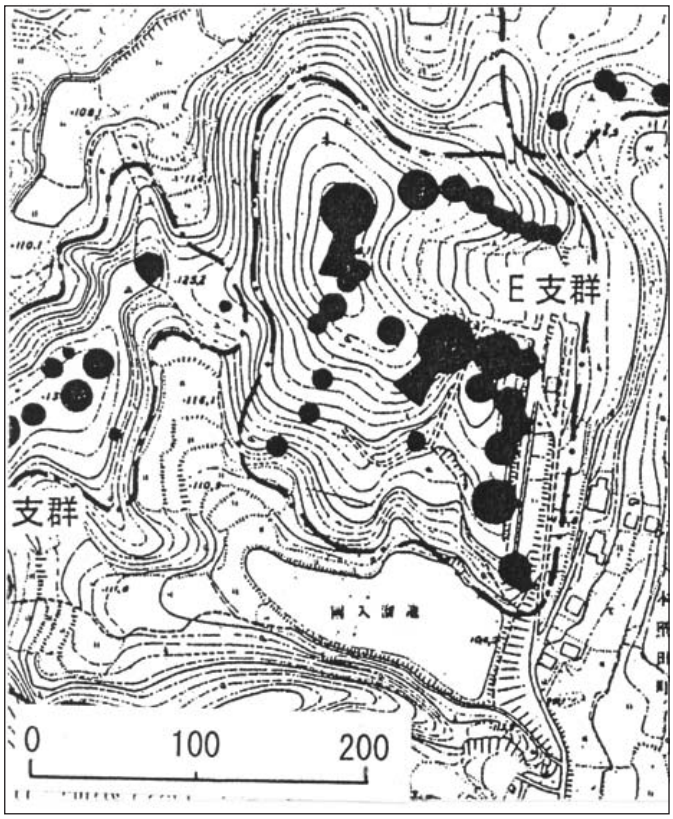
春日山古墳群は、200基以上の古墳から構成される古墳群で、現存する古墳群としては県下最大規模のものです。古墳は11ほどのグループにまとめることができ、このうち、前方後円墳2基を含む32基の古墳で構成される、古墳群の中心となる部分が史跡に指定されています。

当時のできごと	
376年	ゲルマン民族の大移動が始まる
391年	百済　高句麗に属する
414年	広開土王碑建立

春日山古墳群の立地

春日山古墳群は、比叡山麓から派生した丘陵の東端に位置しています。古墳は、葬られた主の経済的な基盤を見下ろす場所に造られることが多いのですが、この古墳群の場合、眼下にはさほど広い農地があるわけではありません。しかし、古墳群の立地する場所は、琵琶湖が最も狭まる場所で、北陸道や、琵琶湖を行き来する舟を一望に見ることができます。

古墳群の所在する堅田は、中世において湖上交通を掌握した「堅田衆」が活躍したところですが（居初氏庭園：学習シートNo.076）、湖上交通の重要性は中世に限ったことではなく、この古墳群が築造された時代においても同様であったと考えられます。この古墳群を築造した王達は、湖上交通を始めとする交通に深く関与した人達だったのでしょう。



春日山古墳群E支群


春日山古墳群からの眺望


露出した石室材


G-5号墳の調査　石室材は湖東から運ばれたもの



春日山古墳群の位置

春日山古墳群の構成

史跡に指定されているのは、前方後円墳、大型の円墳を中心としたグループでＥ支群と呼ばれています。このグループは、春日山古墳群でも最も早く古墳の築造が開始された部分であり、かつ、中心となる人物が、葬られていると考えられます。グループの中心となるのは前方後円墳のＥ1号墳で、全長約65m、後円部径約32m、前方部幅約20mの規模があり、築造年代は4世紀末期頃と考えられます。続く古墳として、これも前方後円墳のＥ12号墳があり、全長は約54m、後円部径約27m、前方部幅約15mの規模があります。これらの古墳については、発掘調査が行われていないため、正確な年代や性格を確定するには至っていませんが、前方後円墳の分布が比較的少ない湖西地方にあって、真野川を挟んで対峙する、全長約71mの和邇大塚山古墳と共に、この地域の首長権の変遷を考える上で重要な古墳です。

関連する文化財

百穴古墳群（崇福寺跡）（大津市）	学習シートNo.005
園養山古墳群（甲西町）	甲賀郡最大の後期古墳群
上蚊野古墳群（湖東地域の群集墳）（秦荘町）	学習シートNo.058

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23

春日山古墳群へのアクセス　JR湖西線　堅田駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会
〔春日山古墳群発掘調査報告書〕滋賀県教育委員会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月